

## 上代皇家の謎

高田 友

第三十五代舒明天皇の皇后・寶皇女は、帝崩御（六四一）あらせらるるや即ち踐祚して第三十六代皇極天皇と爲らせたまふ。（但し「踐祚」の呼稱の用ゐらるるは平安より）寶皇女の御父は茅渟王（舒明皇弟）。茅渟王の御父は押坂彥人皇子。押坂彥人皇子の御父は敏達天皇。すなはち皇極女帝は皇曾孫、且は夫君舒明天皇の姪にておはします。御在位の間、舒明と皇極の正嫡たる中大兄皇子の乙巳の變（六四五）ありて大化の改新となる。是於乎皇極退位あらせられ、登極したまひけるは皇極皇弟の輕皇子、踐祚して孝徳天皇となりたまふ。孝徳天皇は後來、中大兄に虐げ奉られたまへるの儀あれば、傀儡の帝なりしと傳へらるるが、當初は能く群臣を率ゐたまひ、或は乙巳の變の黒幕にておはせしにあらざやと説く史家もあり。孝徳帝崩御（六五四）の後は、皇極上皇重祚したまふ。齋明天皇なり。七年後（六六一）、齋明天皇崩御したまふ。これより後の七年を「天智稱制」とぞ申し上ぐる。中大兄皇子實權を掌握したまひけれど、即位あらせられず、皇太子の分を以て朝政（or あさまつりごと）あり。さは、醜聞ありて帝の器にあらざとの世評による。すなはち、孝徳皇后の間人皇女と情を通じたりとの由。皇后と通ずるだに萬死に該れども、豈吃驚せざるべけんや、間人は剩へ中大兄皇子の同母妹にましましき。古代には異母兄妹の妹背たるは屢々聞く所なれど、同母兄妹の相通ずるは天人俱に許さざるの畜生道に陥ちたるなり。北朝鮮背徳の今煬帝、冥見を恐れず世を擅恣するの人にして、なほ美形の實妹と云々せらるるの條悉皆無之を思ひみられよかし。中大兄自らこれを慮り、即位せずして執政したまふ。即位なき執權を「稱制」といふ。六六五年、間人薨去あり。然則ほとぼりの醒めたりと思召されけん、六六八年天智天皇即位したまふ。これより僅々四年にして崩御、跡目をめぐり、天智の皇子大友皇子（弘文天皇）と皇弟大海人皇子相争ひ給ひて、壬申の亂出來、大海人踐祚して天武天皇となりたまふ。

六六一年、中大兄皇子は百濟救援の爲に兵を發し、那大津なのおほつに行啓あらせたまふ。那大津とはすなはち博多の儀なり。御母齋明天皇を奉じて、博多南方の朝倉宮あさくらのみやを行宮あんぐうと定む。大海人皇子および間人皇女を伴ひ、かつ大海人妃たる大田皇女・鷓野讚良皇女うののささらのひめみこ之に扈從こしうし給ふ。

飛鳥より筑紫へ向ふ道すがら、備前牛窗沖うしまどと傳へらるる大伯海おほくのうみにて、大田皇女に女兒誕生、海の名を取りて、大伯皇女おほくのひめみこ（大來皇女）と名付く。而して、博多に著きて間もなき翌六六二年、鷓野讚良皇女に草壁皇子誕生。加しか之のみならず翌六六三年（白村江の敗戦の年）、同じく博多に於て大田皇女男兒を擧げ、以て大津皇子と命名せり。

大津皇子の名を近江大津あふみのおほつより取りたりとの俗説流布すれど誤てるなり。近江大津もしくは草壁氏の一族にあらざやと唱ふる者多し。而して、「大津」の名を異母弟に譲りたるの所以は、寔は大津皇子が草壁皇子よりも先に生れたまひければなりと説く人あり。長じて後、草壁の母たる持統天皇、草壁を皇位に即けんがために、長幼の序を偽りたりと。

宜むべなるかなと膝を打つの人もあるべし。

然れども茲許こゝもとに異説あり、單獨説なれど敢へて世に問はんとす。

鷓野讚良皇女（持統天皇）は大田皇女の同母妹なり。大海人皇子（天武天皇）登極とうきやくあらせらるるの曉には立後の序列は一に大田皇女なること言を俟またず。しかるに鷓野讚良の立ちたまひけるは、大田皇女すでに世におはしまさざればなり。六六七年、近江遷都の年に薨かうじたまひき。このとき大津いまだ五歳。

鷓野讚良皇女、男兒を出産したりと雖も、姊大田皇女に懷胎の兆しあり。あるいは男兒なりやも知れず。立后すべき大田皇女所生の男子こそ日嗣皇子ひつぎのみこなり。而して、大田男子を生まば、誕生の地たる「大津」の名の與へらるべし。由りて、鷓野讚良は姊を憚りて、大津の名を避けたるにあらざや。此を以て彼を見れば符節ふせつ合して、大津こそ兄なれとの牽強付會けんきやうふくわいなる強辯きやうべんを用ゐるの要なかるべし。

かくも姉を憚りたる鷺野讚良なれど、一日皇后の座にゐたまふや、我が子の登極を願ひたるは母の情なり。陰謀を企みて、慕ひ來し姉の子を死に逐ひ込むに至る。

本朝の人は判官鼯鼠なり。就中大津皇子は文武に優れ、容顔麗しかりけり。これに比して草壁皇子は凡庸柔弱なりきとなん傳へらるる。然ればこそ、世の人、大津を善玉に祀り上げ、持統女帝の畫策によりて、謀叛の實はなかりしに、冤罪に陥れられたりと信ずる者多し。

されど、さは非武装中立の空理空論に似て、人生の眞實を知らざる人の世迷言なり。

大津は洵に朝廷を覆さんとの大逆を圖ひたりと推察する史家尠ならず。とりわけ、天武崩御せらるるや、齋宮なりし大伯皇女を伊勢に訪ひたるは、神宮の兵力を恃みて擧兵せんとの策略を姉に語らひたるにあらずやと言ふ人あり。姉宮、その力及び難きを説きて斷念せしめ、弟は空しく飛鳥に歸りて縛に就きたりとの由。

前述の如く、近江遷都の年、大津は五歳にして母を喪ふ。それより後、大伯と大津の姉弟は、天智天皇の傍らにありて傳育せられ、天智の大津に接するや實の子を遇するが如し。

天智より見れば、大津は確執尋常ならざる弟の子なり。何故にこれを鍾愛したまひしやと訝る向きもあらめど、その母大田皇女は天智の皇女なり。すなはち大津は天智の外孫なりけり。

天智天皇は四人の皇女をして大海人皇子に嫁がしめたり。大田、鷺野讚良の外に、大江皇女、新田部皇女あり。さは、額田王を大海人より奪ひたる代償ならんとの説あれど、一方、天智（中大兄）と額田王の通じたるは、かの「人孀ゆゑに」の歌の外には傍證なく、かつ此れが歌は戯れに過ぎずと言ふ者多し。それがしもまた、弟嫁に無理強ひしたまひたるの儀はなかるべしと察し奉る。皇女を皇弟に賜りたるは皇家の絆を固めんとの策に出でたるに相違なし。

草壁も天智の外孫なれど、常に天智の傍らにありしにはあらず。剩へ、天凜の資質大津の方遙に優れたるものあり。これにより、天智は大津を鍾愛して已まず。天智の御命長ふるあらましかば、あるいは草壁・大津の皇位をめぐる争ひの行く末も測り難かりけん。

皇家血族のかかる紛糾は例多し。弘文天皇（大友皇子）は、大海人皇子（天武天皇）に攻められて自頸したまひけるが、その幼かりし皇子・葛野王は刑せられずして、皇族に名を列ぬ。生母十市皇女、大海人皇子と額田王との間に生まれたる皇女なればなり。

大海人皇子（天武天皇）より見れば、この戦ひに勝を得れば我が男系子孫が日本國の主たるべし。然れども、敗るれば女系子孫が主たらん。いづれならんとも大差なきが如くに思はるるならんや。えやは空しき戦といはざるべき。

壬申の亂に際して、十市皇女、鮒の腹を裂きて密書を封じ、夫の動靜を父に密告したりとの傳説あり。後世、お市の方、小豆の袋を縛りて夫長政の敵方に回りたるを兄信長に通謀したりといふに同斷、笑止の極みなり。

十市皇女は敗戦の後七年にして薨去あり。夫を慕ひ、父を恨みて自裁せられたるにあらざやとの説あり。鮒の腹を裂くとは如何にも如何にも好奇の世人の捏造したる所、皇女の泉下にて謂れなき冤罪に泣き給ふらん。加之、この俗説をもとにして、お市の方の小豆の流言も出来したりけん。ああ、誠心を盡したる高貴の貞女兩人、この汚名を晴して奉らんとは我が庶幾ふ所なり。

（令和三年六月二十五日受附）